

2022年3月4日

宛先： 辻恭子 代理人 谷 直樹 弁護士
写し： 西山和子 成年後見人 加藤 貴大 弁護士
岩永・新富法律事務所 岩永 隆之 弁護士
西山キミエ 成年後見人 安部 高樹 司法書士
辻 竜也 様
西山 円 様

道後湯之町 西山 美年子

件名： 辻恭子の度重なる喪主宣言について

2018年11月30日から、キミエ母(101歳)相続の準備を進めています。
3年が経ちました。後見人1人と弁護士3人が入っています。
辻恭子により、キミエ名義の資産が隠蔽され、未だ遺産分割協議書を作るに至っていません。

この3年の間、一番のショックは、辻恭子の突然の喪主宣言です。
何故なのか？ 何の魂胆があるのか？ 私共夫婦には理解できませんでした。
辻恭子に引き下がり、西山紀男が喪主をしないこと。
夫 紀男の、この無様な姿、みっともない姿を息子家族に見せたくない。

西山家の先祖累代の墓は、2014年に諫早から横浜の長延寺境内に改葬しました。
お墓は、西山円・敬子夫婦、大学3年になる孫の華世、小学6年になる孫の知志によって
守られています。
菩提寺となった長延寺ご住職とのお付き合いは、敬子(西山円の妻)がやっています。
孫2人は、賢く、どこに出しても恥ずかしくないような、しっかりした子に育っています。
西山紀男と辻恭子のイサカイを美年子が伝えたら、理解できるほどに成長しています。

次に、経緯を書きます。

1, 2020年8月26日、谷弁護士を通じて、恭子が喪主を務めたい。

理由は、(1)法律で決まっていない。

(2)キミエ母の身の回りを世話してきた。

(3)後事を託されていた。

2, 2020年8月28日、西山紀男は、谷弁護士を通じて反論をした。

結婚して西山を出た辻恭子が何故喪主をするか？

3, 2020年9月1日、西山美年子は、反論を辻恭子へ直接葉書を出した。

世間体がある、西山は没落したのか？ 長男 紀男は何をやっているのか？
考え直して下さるよう、お願いの葉書だった。

4. 2020年9月11日、美年子は、辻恭子へ喪主についての反論を
3ページに亘って書いた。(正源寺の本堂の写真を入れている)

5. 2021年6月14日、谷弁護士を通じて、下記の3点が届いた。

(1) 恭子が喪主を務めたい、と又もや、言ってきた。

(2) 辻恭子がキミエ母を老人ホームに入居させた後、辻俊雄がキミエの口座から
費消した、水、電気、NHK受信料、辻俊雄名義の車購入費、辻俊雄名義の家の
修理代について、「後見人から請求されてないから返還しない、請求できるのは
後見人だけだ。」と、

(3) キミエが2021年6月急変の折、長延寺のご住職に付けていただいた法名に
対して「紀男がお寺に行って、法名を院号に変えよ。」と命令してきた。

6, 2021年10月19日 西山紀男から 谷弁護士へ、
「西山キミエの喪主をしたい」との西山の弔事に対する辻恭子の介入は許さない。

その後、辻恭子から谷弁護士を通じての返信は、何もない。

「突然の喪主宣言」に夫も私も強いストレスを受けました。

辻恭子はいつも、きままに、好き放題に、何の責任も持たないで、発言します。

自分の立ち位置が分っていない、巷で使われる言葉を借りると、「自分を何様だと思っ
ているの？」

後見等事務報告書および、後見人からの文書を見ると、辻恭子の虚偽証言が至る所に見られ
ます。根拠のない騙りが多いです。この騙りを安部後見人は見逃しています。

私事ですが、美年子は横山の父は6人兄弟、従妹は22人。

母 井川は7人兄弟、従妹は17人。

従妹たちは合わせて39人います。

横山は、先祖代々 寺総代を引継いでいたので、旧横尾の人たちとも多く付き合いがありました。
どこの家も相続のトラブルはなく、当たり前のように、長男が家督を繋いでいました。

結婚して、家を出た娘が実家の喪主を務めた家は1軒もありません。

美年子が横尾の「横山の喪主を務めたい。」と申し出たていたら、時津中のうわさになり、
村八分になったことでしょう。財産目当ての言いがかり、と非難されたことでしょう。

横山の実家は遺言があり、公正証書にしてありました。

西山家のトラブルは、

(1) 辻恭子の欲望。

キミエ母を老人ホームに入れた後、母の部屋に貴重品をまとめて入れてあったカバンをそのまま持ち出し、隠蔽しています。

紀男は、そのカバンを留太郎相続のとき、見せてもらい、知っています。
これは、犯罪です。

(2) 辻俊雄の卑小。

自分の飲んだ水代も払わない、と主張しています。

自主性がなく、恭子の言うなりです。

美年子に対するバッシング。

美年子と俊雄は相続権もなく、何の利害関係もないのに、何故ですか？

「美年子に魔物がいる。」と攻撃するし、「美年子を書いたものは妄想だ。」と書いてきた。

キミエ母は、相続の準備ができるまで、命を長らえてくださいました。

104歳で CVC という延命治療をして、3月17日、105歳を迎えます。

お葬式は、兄、妹で、わだかまりなく、静かに、穏やかに、お見送りしたいものです。

辻恭子さんが身の回りの世話をしてくださり、キミエ母は、本当に恵まれた方だ、と思います。

88歳から老人ホームに17年間入居しています。

かいごの花みずきのケアマネジャーは、「99.9% 花みずきで介護をしています。

辻さんに「何々をしてください。」と要請したことはない。」と言っています。

キミエ母は辻恭子からの介護は受けていません。

「辻さんは、お顔見とお声かけです。」と言っています。

でも、娘が傍にいるということは、母にとっては幸せなことでした。

辻恭子が「喪主を務めたい」、と騒ぎ立てたことに、夫は怒っています。

きちんとけじめをつけて、お詫びをしていただきますようお願いします。

紀男記始め、

1. 喪主をする、と騒ぎ立てたまま、この状態を続けるのであれば、キミエの遺体は辻に持っていき、辻の墓に入れてくれ、その後の法要もそちらに任せる。

2. わび状を入れなければ、西山家葬儀会場への辻一族の入場を禁止する。
当日は、ガードマンを雇い、葬儀会場への立ち入りを排除する。

辻恭子夫婦は、相続のトラブルを竜也夫婦と武太郎くん、柊子さん、
および濱崎朱美夫婦に正々堂々と語り継げますか。

私どもは水問題等々の件について裁判の準備をします。
告訴すれば、訴状は公開されます。
辻一族が社会的信用をなくすことは、子々孫々まで残るでしょう。

谷弁護士からの書簡には、法律にないから、と書いていますが、民法の【祭祀に関する権利の承継】第897条を読んでください。「慣習に従って祖先の祭祀を主宰すべき者が～～」と謳っています。

文書類をいつも美年子が記述していますが、これは出しゃばりではありません。
200年以上続いた西山を次世代につなぐためです。
紀男は、交通事故による脊髄損傷の後遺症のため、指が動かなく、文字を書くのが困難です。
82歳を過ぎて、キミエと恭子に振り回されています。

紀男記終り、

以上、